

きれいでおいしい水を守っていくため」

## 富士宮市内中学校

### 小野さん

私は富士宮市の柚野地区という場所に住んでいます。人口は約二千五百人で、田んぼと畑が多くお店は数軒しかないのかな地域です。

私の家は古い一軒家で裏に畑があり自分たちで食べる分の野菜を育てていますし、鶏を飼って生ゴミを食べていたり、父は日本ミツバチを飼っていたりします。家にはいまだにクーラーもなく、扇風機で暑い夏をやり過ごしていますが、近くの川は一年中冷たくきれいなので我慢できなくなると川に入りに行くこともできるのでなんとかこなっています。市内でもこのようなのかな地域は珍しいようで、友達や親せきなどと話をすると驚かれることも多いです。私は小さい頃からこの地域に住んでいるのでこれがいとも悪いとも思わず普通だと感じています。両親は千葉と埼玉の出身なので両親などの話からこのような地域は今の日本にはあまりないもので、それは貴重で素晴らしいものなのだと考えています。自治会では年に何度か地域清掃の日があり、みんなで集まってゴミを拾いますが、道などにはほとんどゴミは落ちていなくて、かろうじて落ちている農業資材の切れ端やたばこの吸い

がらなどを少しだけ拾って終えることも多く、ゴミが少ないことも自慢できることの一つだと思っています。

そんな私の家では、面倒だなと思っているルールが一つあります。それは、食事を食べ終わった後で使ったお皿を拭いてからシンクに片付けないといけないことです。特に、油分がついているカレーや炒め物を食べた後のお皿や、醤油やソースのついているお皿は、使ったかわからなくなるほど真っ白にふきあげないと父に怒られます。父はいつも、

「お皿をふくことで魚を守れるんだよ。」

と言います。柚野地区には下水道が通っていません。各家には浄化槽がありますが、うちの浄化槽はまだ単独浄化槽というトイレで使った水だけが浄化槽で浄化されるタイプのもので、お風呂や洗面、お皿を洗った時の水は直接水路に流れ、芝川に流れていくものだそうです。だから、私たちの食べた後のお皿の上に残った油分も醤油やソースで汚れた水もそのまま直接川に流れて行ってしまふのです。私は最初この話を聞いた時、本当に驚きました。それは大変だと思いました。どう考えても川が汚れてしまうからです。食べた後のお皿をふくルールは、うちでは当たり前ですが、学校や友達の家などではやらないので、一時面倒なルールだなと思って嫌々やっていたころがありました。

魚やこの地域のきれいな川のことを考えると、仕方がないと思うようになりました。むしろ、他の場所でもやったほうがいいのになぜやらないんだろうと今では思っています。

先日、夏休みに母の実家である千葉県に行ってきました。祖父母の家水道に見慣れないものがついていて気づきました。これまでも毎年祖父母の家に行っているのですが、気づいたのが今回が初めてでした。

「この装置は何なの？」  
と母に聞くと、

「これは浄水器だよ。水があまりきれいじゃないからこれです。過するんだよ。」

と教えてくれました。そんなものがあるのかと驚きました。自宅の水道にはもちろん浄水器はついていませんし、夏でもそれなりに冷たい水が出ますし、そのまま飲んでもおいしいです。調べてみると、おいしい水研究会というところが決めた水道水がおいしい地域三十二に富士宮市は選ばれているんだそうです。当たり前だと思っていた水道の水は、日本全体で見てもおいしい水だったんだと初めて知りました。祖父母には申し訳ないですが、千葉の浄水器を通っていない水を飲むのは怖くてできませんでした。

私は柚野地区が好きです。カラオケも商業施設もないし、坂道が多いし、車が運転できない私たちにとっては自由に移動することもなかなかできませんが、隣の家との距離も遠く周りを気にせずに生活ができた、鳥や生き物たちとの距離も近くどこかで平和でみんな助け合って生きている感じがします。そんな私たちの暮らしが川や環境を汚していくのはやはり嫌なので、これからも自分にできることはやり続けたいと思います。いつか大人になって自分の家を持った時にも、このままのきれいな川とおいしい水が飲める環境を残していくために、食べ終わった後のお皿をふくことを、周りの人にもしてもらえるようにできたらいいと思うし、環境にいい洗剤を選んだり、油をできるだけ流さない工夫をしていきたいと思っています。

今学校では柚野地区の発展について調べたり考えたりしていますが、発展と環境を守っていくことの両方を大事にできる方法を考えていきたいです。